

1 学校教育目標

広い視野をもち、夢を追いかけ、未来にはばたく人間を育成する。

- ・自ら学ぶ人
- ・協力しあう人
- ・健やかな人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ生徒を育む学校 ・豊かな心を育む学校 ・地域が誇れる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって自ら学ぶ生徒 ・規範意識をもって互いに協力しあう生徒 ・健康を意識し、体力向上に努める生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心をもって実践力、指導力を高める教師 ・生徒に寄り添い、情熱をもって職務を遂行する教師 ・生徒、保護者、地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

新型コロナウイルス感染症拡大で教育活動が制約される中、生徒たちは日々学習や委員会活動に精力的に励み、落ち着いた環境のもとで生活している。前年度の成果と課題については以下の通りである。

- ① 基礎学力定着について。基礎学力が不足している生徒が多く、毎年、小学校からの復習や学習習慣づくりから始めなければならない。中学校の学習の進行と併せて授業を中心に必要な復習や繰り返し学習を行っていく。
- ② 全体的には落ち着いた学校環境であるが、集団生活に適応できない生徒や規範意識の低い生徒、SNSを介したトラブルも発生している。豊かな心の育成や適切な行動が身に付く指導を通じてそれらの状況を改善していく。また、不登校対策については、一人ひとりの状況把握と今後の対策を組織的に検討して進める。
- ③ 特別支援教室は順調に運営できているが、通常学級とのさまざまな交流をさらに活発にしていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン（基礎学力の定着、ICTの活用推進）		○	○	○	○

2	豊かな心をもつ生徒の育成	○	○	○	○	○
---	--------------	---	---	---	---	---

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン（基礎学力の定着、ICTの活用推進）
-------------------	--------------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標正答率・通過率)	実施結果 (正答率・通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
区学力調査通過率の引き上げ	年度末到達度確認テスト正答率 63.0% 令和4年度区調査通過率 64.5%	平均正答率 59.3% 令和3年度区平均を下回る教科が多い	より効果的な取り組みを模索していきたい	△

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	タブレット等ICTを活用した授業推進	全教科	年間	授業内容に即した効果的なタブレットの活用。また生徒一人一台のタブレットを活用した授業の開発。	年2回の授業観察時に実施の確認	全ての教員の実施 (100%)	全教員生徒一人一台のタブレット活用までにはいかなかったが、タブレット活用自体は100%達成	今後、学習効果を考えながらの活用になっていくと思われる。	○
2 継続	指導案に基づく授業観察	全教科	年2回	足立スタンダードを意識した指導案の作成と授業実施	年2回の授業観察時に実施の確認	全ての教員の実施 (100%)	指導案作成は100%実施。	スタンダードの中で「目標提示」と「振り返り」の重点化などの工夫が実効性を高める。	○
3 継続	学習コンテンツ (漢字・計算・スペリング)	3教科	年3回	3教科の基礎的内容の定着を図る。達成感と自己肯定感を高める。	プレテスト本テストの実施	平均合格率80%	学校全体では60%程度で目標の80%には届かなかった	休校等もあり準備期間が不十分だったり全体の意識も低下してきた。	△
3 継続	読書指導と学力補充	3教科	年間	朝のベーシックタイムと放課後の学力補充における読書指導および基礎反復学習	進行管理(計画と実施)	計画の90%以上の実施	放課後補充は計画段階で縮小を余儀なく数字的には表せないが不十分。	緊急事態宣言や感染症対応で満足できる水準には達しなかった。	△

重点的な取組事項－２		豊かな心をもつ生徒の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
豊かな人間性と社会性をもち充実した学校生活を送る生徒の高い割合		「学習や生活に関する調査」で該当項目の肯定的評価を以下の規準で判断 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	評価は「A」（92%が肯定的評価）。	学校生活は大きな課題もなく多くの生徒は授業、生徒会、行事、部活動等に熱心に取り組んでいる。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
充実した道徳教育	道徳授業の時間 A=35回以上 B=30～34回 C=30回未満 調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 全教員のローテーションによる道徳授業の実践 情操を育む朝のクラシック音楽の放送 いじめ撲滅週間の実施 人権学習週間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳授業については「A」（35回実施） 生徒の意識調査による道徳に関する実態では、肯定的評価は「A」（93%） 	目に見えにくい部分はあるが生徒の言動などで判断していく。いじめ等はその都度指導して解決に導いている。	◎
意欲的な学習活動	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のやる気を引き出す足立スタンダードに基づく授業 学習課題の適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意識調査での肯定的評価は「B」（83%） 	基礎学力が着実に定着できるように今後も取り組んでいく。	○
読書活動の推進	図書館貸出図書数の前年度比 A=10%以上増加 B=10%未満増加 C=減少	<ul style="list-style-type: none"> 読書の励行と図書室の利用促進 図書委員会の活動活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館貸出図書数の前年度比は「A」（38%増加） 	調べ学習などにも多くの利用がある。新型コロナウイルス感染症のため開室制限があった。	◎
体験・交流活動および継続的なキャリア教育	ボランティア生徒数 A=100名以上 B=80～100名 C=79名以下 体験活動の実施 B=した C=しない	<ul style="list-style-type: none"> 地域等での異年齢交流ボランティア活動 芸術体験活動の実施 職場体験及び上級学校訪問等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事は新型コロナウイルス感染症拡大により中止。 	次年度は通常通り、地域行事やPTA行事が実施できることを期待したい。	—

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

- 【課題】・国語、数学、英語のいずれもほぼ全ての観点・領域で区の平均値を下回っている。
- ・国語では特に「書く力」、「読む力」、「言語についての知識 理解技能」に課題がある。また数学では特に2年の「図形」、「関数」、「資料の活用」が定着していない生徒が多い。英語では「読むこと」、「聞くこと」、3年では「書くこと」に課題があり、4技能の総合的な基礎学力の定着が必要である。
- 【対策】・国語では言語事項や文章、文法について授業中の指導の工夫や授業内での漢字小テスト、復習課題などを組み合わせて指導していく。また足立スタンダードを活用し、対話的な言語活動を進め、考えの形成から発表・共有を図りその活用能力を高めていく。
- ・数学では振り返りの復習問題の取入れを行うとともに、授業内容を細かく確認テストで点検し、1年間のまとまった内容の復習を分割して順次行い小テストで定着を図っていく。定着度確認テストではその成果が出ていた。
 - ・英語は英単語や基本文の振り返りテストで基本語彙の定着を図る。質問応答文はペアによるチャット活動を継続して行う。またALTとのパフォーマンステストなどを活発に行うとともに、まとまった英文の要点を捉える練習を積極的に行い4技能の力を総合的に育てる。

イ 健全育成

- ・学校行事をはじめ諸活動が思うようにできなかったが、そうした環境の中でも生徒は概ね落ち着いた生活を送ることができた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・保護者や地域の期待に応える学校づくりが大きな目標です。礼儀正しい生徒。素直で優しく、適切な判断ができる生徒。いじめなどをしないで友達や仲間を大切にする生徒。そして、一生懸命勉強をする生徒をこれからも育てていきます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今年度も教育活動が大きく制約されたが運動会などの学校行事を工夫して行うことが出来たのは収穫だった。次年度も厳しい状況が続くことも予想されるが、少しでも生徒が成長できるように全力を尽くしていきたい。